

第

3

章

環境の将来像と 目指すべき地域の姿



1 環境の将来像

2 目指すべき地域の姿

連携が築く

豊かな自然とふれあう里

風早

～未来につながる 人と自然との共生を目指して～

本計画では、環境の将来像として「連携が築く 豊かな自然とふれあう里 風早 ～未来につながる 人と自然との共生を目指して～」を基本理念に掲げ、地域一体となった取り組みを進めていきます。

この将来像のもと、各主体が連携して、地域の豊かな自然を知恵と工夫で大切に守り、磨き続けることにより、環境への負荷を低減し、豊かな自然を未来へつなげ、人々の笑顔が広がるまちを目指します。



「2050年の北条地域の姿」は環境の将来像（基本理念）の実現に向け、目指すべき地域の姿を示すものです。

併せて本計画では、環境総合計画が掲げる「環境保全型」、「環境配慮型」のまちづくりを北条地域にて実行し、目指すべき地域の姿の実現に向けて取り組みを進めていきます。

また、本計画の取り組みは環境総合計画の目指すべき姿である「2050年の松山の姿」（次項に掲載）にも重なるものです。

2050年の北条地域の姿

2050年の北条地域は、住民一人ひとりが暮らしの中で自然環境への配慮を行うとともに、身近な自然環境を重視する価値観が地域全体で共有され、自然と共生する生活文化が根付いています。

また、各主体の連携により、他の地域のモデルとなる「豊かな自然とふれあう里づくり」が進められるとともに、快適な生活環境と豊かな自然を保全する「環境保全型」、みんなが環境に配慮した行動を率先する「環境配慮型」の地域コミュニティが築かれ、いつまでも住み続けたい持続可能なまちとして住民に愛されています。

【参考】目指すべき「環境保全型のまち」の姿

- 里地・里山・里島が人の手により適正に管理され、生き物でにぎわっています。
- ビオトープが設置され、憩いの場として児童や生徒が集まり、自然と触れ合う中で環境保全の意識が育まれています。
- 川に豊かな自然環境がよみがえり、水辺で子どもたちが生き物と触れあっています。

【参考】目指すべき「環境配慮型のまち」の姿

- 様々な機会を通して、ライフステージにあった環境教育を継続的に行うことにより、一人ひとりが自発的に地域の環境を守っています。
- 市民・市民活動団体・事業者が環境に配慮した取り組みを行う際の支援体制が充実し、みんながいきいきと活発に活動しています。
- 各主体がつながりを深める機会が創出され、みんなが環境に配慮した活動に取り組む「環境の環」が広がっています。

2050年の松山の姿

